



11月8日、RaiboC Hallにて、「2022年末手当満額獲得総決起集会」を開催し、コロナ対策を行う中、多くの組合員が結集しました。集会では本部福田組織研修担当部長より交渉の報告を受けました。交渉では、6000件を超える声を集約し職場の苦闘に報いるべきと強く訴え、「職場の努力により黒字転換を実現したこと」、「有利子負債は期末手当の抑制理由にならないこと」、「物価上昇で厳しさを増す社員の生活を守ること」等を確認し、満額回答でモチベーションを向上させるべきと主張したこと等が語られました。

討論では、「出せない理由」を並べ職場の苦闘に報いようとするしない会社姿勢や、離職による人材流出の不安、物価上昇の中で家族を支える厳しい生活実感、「収入見込みを楽観視できない」とする一方で役員報酬の自主返納を中止した経営陣への強い怒り等が語られました。

また職場での関わりを通じて組織拡大を実現した実践や、年末手当の議論を組織強化へと繋げていく決意等も語られました。

仲間の実践と決意を共有し、年末手当満額獲得まで全組合員でたたかい抜く事を確認し、集会は成功裏に終了しました。



集会に結集した仲間から、会社への怒り・職場でのたたかい・働く者の声が出される!



黒字業績は現場で働く仲間の苦労で成し得た!
会社は今こそ私たちの苦労に報いるべきだ!
職場からのたたかいで満額回答を勝ち取るぞ!